

関係者各位

東新住建株式会社 住宅市場研究室

問合せ先：小間 幸一、小崎 敦史

Tel：0587-23-7461(直通)

0587-23-0011(代表)

メール：[atsushi-kozaki@toshinjuken.co.jp](mailto:atsushi-kozaki@toshinjuken.co.jp)

ホームページ：<http://www.jyuseikatsu.jp/>

## 愛知県・東京都・大阪府の 「利用関係別・新設住宅着工戸数」の月別推移グラフ 平成21年12月版(最新版)

東新住建株式会社 住宅市場研究室では表記の資料を作成いたしましたので、  
ご案内申し上げます。

### ■愛知県・東京都・大阪府の「利用関係別・新設住宅着工戸数」月別推移グラフについて

国土交通省が毎月公表しております「建築着工統計調査(月報)」をもとに愛知県、東京都、大阪府の新設住宅着工戸数の推移を利用関係別(持家・貸家・分譲戸建・分譲マンション)に、月別に折線グラフで表したものです。過去約3年間の動向を月別に一目で見ることができます。ぜひ、ご活用ください。

### ■愛知県に関するコメント(東京都、大阪府除く)

#### ①総数(持家、貸家、分譲戸建、分譲マンションの合計)

・総数は4月に底をつけ、5月以降は上昇と下降を繰り返しつつ大きくは横ばい傾向を示す。12月は11月より増加(18.4%)し、2月レベルへ戻している。但し、1月レベルまでの回復はできなかった。

#### ②各種類の住宅の状況

・貸家は、4月以降は上下を繰り返しつつ大きくは横ばい傾向で、9月に底をつけた。12月は11月より増加(31.6%増)し、結果として、2月の水準に戻している。

・細かい部分ではややずれるが、同様の傾向は分譲戸建でも見られる。3月が底で、上昇と下降を繰り返しつつ大きくは横ばいながら、12月は11月より微増(5.4%増)で、水準を1月レベルへじわりと戻している。

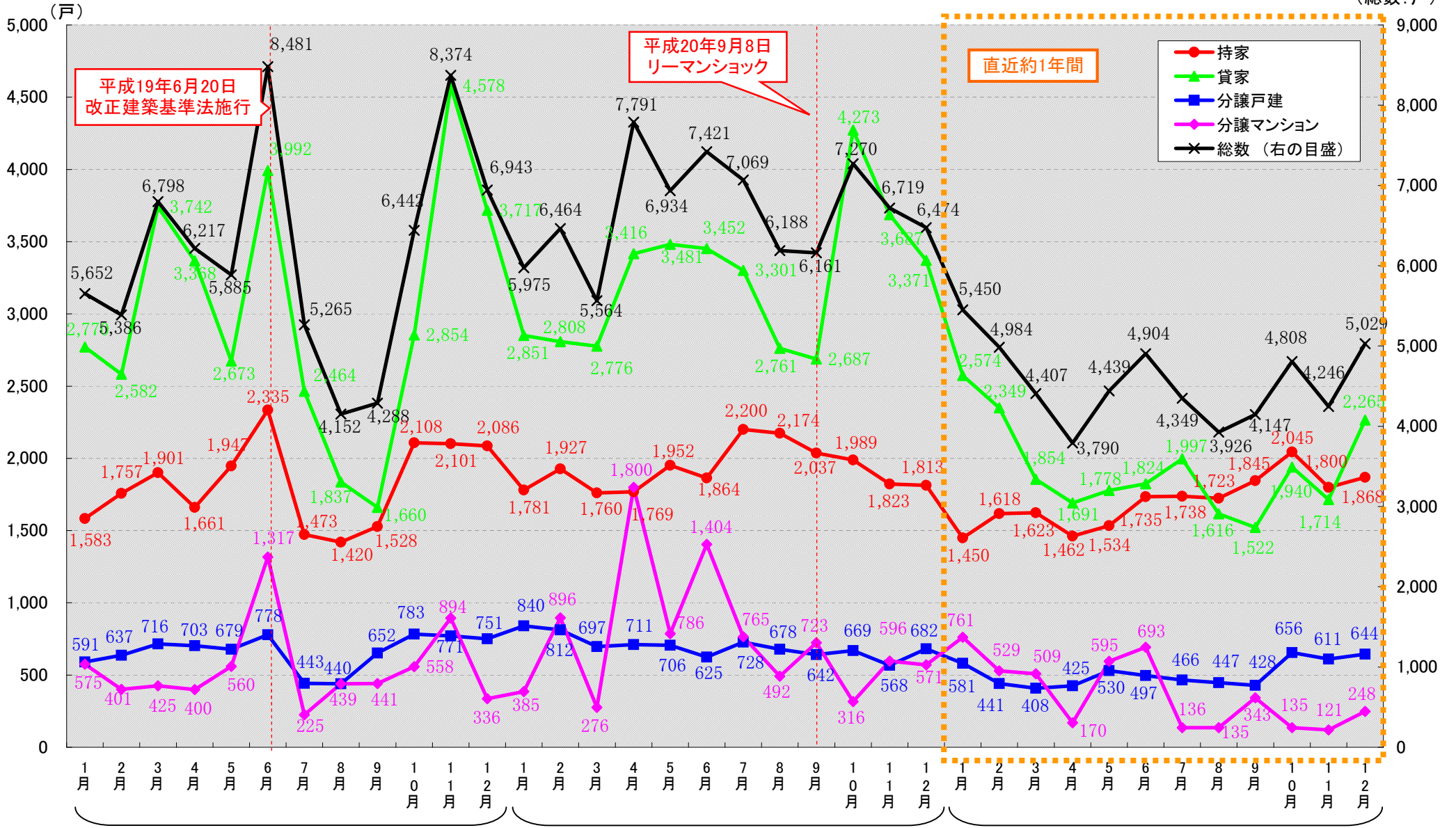
・特異な動きは持家に顕著にみられる。1月には早くも底をつけ、それ以降、横ばいかと思いきや2~3ヶ月毎に確実に上昇を見せた。12月は11月より微増(3.7%増)だったが、2008年12月レベルへと戻すことに成功している。持家の需要の底堅さ、安定感を印象付けた格好となった。

・分譲マンションは最低が11月と遅く、従って、確実に底を打ったかどうかの確信が持てない状況だ。12月は11月の約2倍だが、1月の約3分の1でしかない。地に足の着いた動きを見せるのは半年以上先のようなだ。

#### ③まとめ

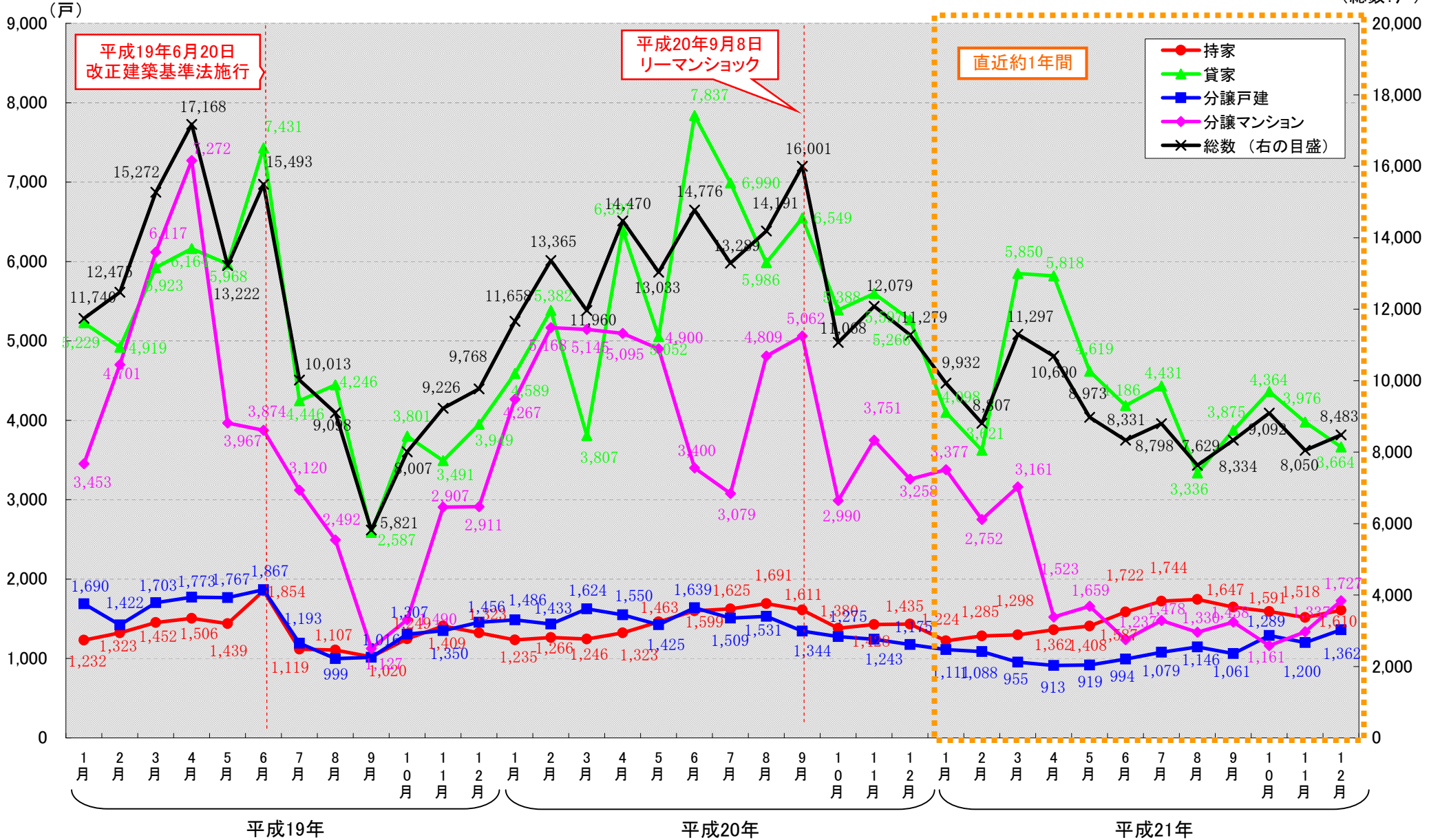
・貸家、分譲戸建は底を打って復調の兆しが弱いながら出始めている。しかし、その水準は今一歩といわざるを得ない。分譲マンションは、不安定な状況から脱しきれていないという感じだ。但し、持家のみは底堅さと安定感のある動きを見せている。(以上、文責：小間)

# 愛知県 利用関係別・新設住宅着工戸数推移



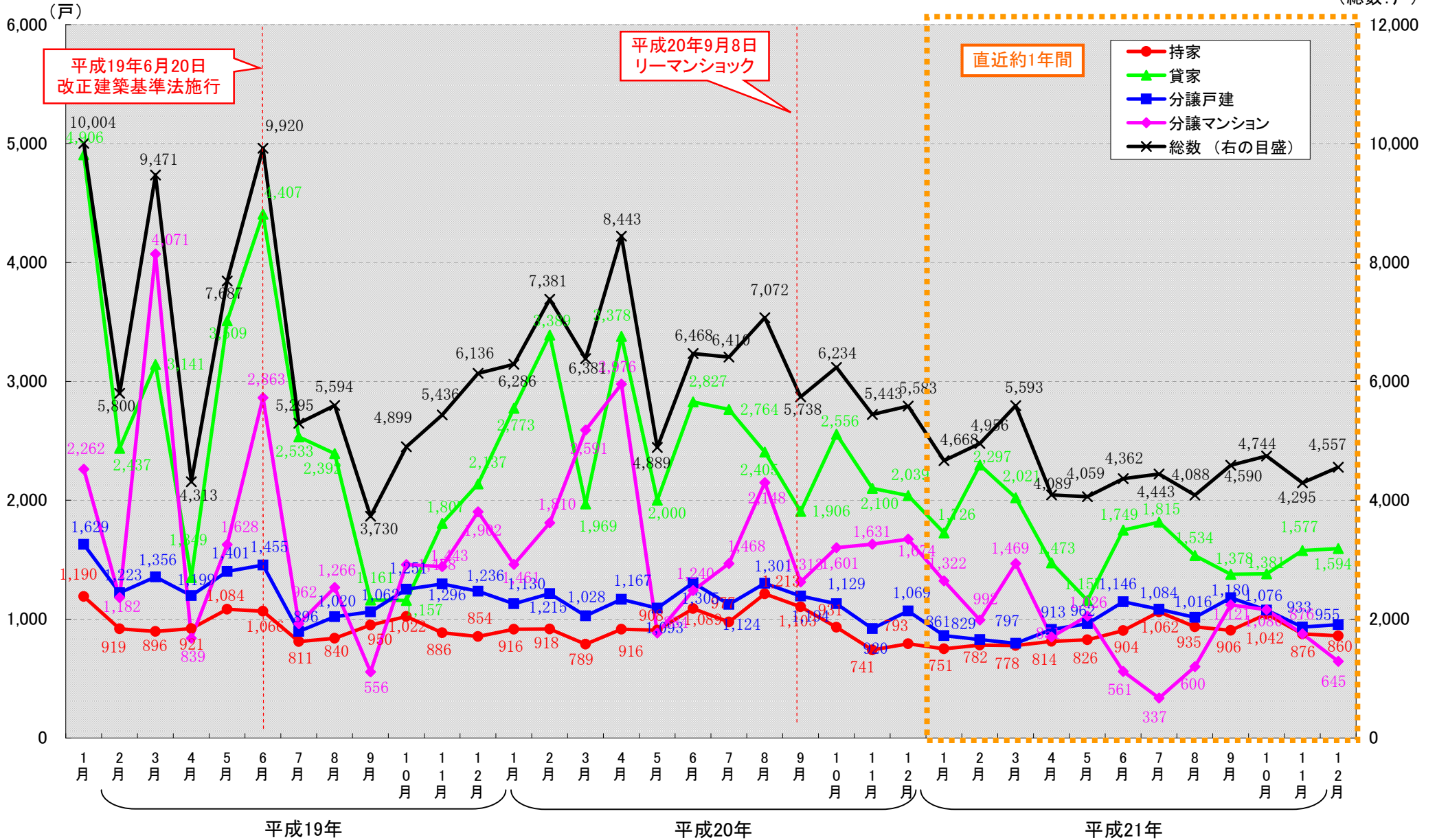
※国土交通省 建築着工統計調査 [http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku\\_list.html](http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html) より住宅市場研究室にて作成  
 ※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。

# 東京都 利用関係別・新設住宅着工戸数推移



※国土交通省 建築着工統計調査 [http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku\\_list.html](http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html) より住宅市場研究室にて作成  
 ※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。

# 大阪府 利用関係別・新設住宅着工戸数推移



※国土交通省 建築着工統計調査 [http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku\\_list.html](http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html) より住宅市場研究室にて作成  
 ※「給与住宅」および「分譲戸建・マンション以外の分譲住宅」を割愛の為、総数と合計は一致しない。